

環境と共生する。 アジアの稲作文化を世界へ



栃木県の田んぼ

第3回日韓田んぼの生きもの調査交流会実行委員会

日韓田んぼの生きもの調査交流会

●開催日：

2008年8/2(土) ~ 3(日) 1泊2日
(8/1 前泊) (12:30 終了)

●開催場所：

JA ささかみ 本所および周辺 新潟県阿賀野市山崎 58 番地

TEL:0250-62-2410 JR 豊栄駅よりバス送迎

●一般募集：50名

(定員オーバー等の理由で、参加予約できない場合があります。ご了承ください)

●参加申し込み：指定の申し込み用紙(別紙)にて

●参加費用：参加費 5,000 円(税込)

宿泊費・交流会費 22,000 円(税込、8/1 夕食から) 20,500 円(税込、8/1 夕食なし)

●申し込み締め切り：2008年7月18日(金) 必着(FAX または e-mail でお申込ください)

●お問い合わせ：NPO 生物多様性農業支援センター(担当：石川)

●TEL：042-711-7015

●FAX：042-711-7016 ●E-mail：tambo@wehab.jp

●直前のキャンセルは、キャンセル料が発生する場合があります

【主催】第3回日韓田んぼの生きもの調査交流会実行委員会



韓国・順天市の農村

第3回日韓田んぼの生きもの調査交流会

私たちの暮らす日本、そして韓国を含む東アジア地域では、水田稲作が数千年にわたって営まれてきました。こうした稲作地帯に広がる水田は、主食である米を生産すると同時に、地下水を育み、洪水から村を守り、環境を守ってきました。

さらに、水をたたえた水田は、湿地としての機能を持ち、野鳥、動物、昆虫、魚類から畦草まで、豊かな生物多様性を育んできました。さらには、こうした自然と共生する暮らしは、稲作文化を生み出し、今の時代に受け継がれてきました。



現在、世界的な食糧危機が迫っていますが、この原因にはバイオエタノールの需要増大、新興国の経済成長、異常気象による不作などがあると言われています。こうした危機を乗り越えるためにも、自然と共生する新たな価値観を日本、韓国から世界に発信していきたいと考えます。

今回の交流会では、こうした水田の重要性を、日本、韓国の生産者、消費者、地域住民が共に行う田んぼの生きもの調査交流を通して共感を深めます。そして、持続可能な社会の象徴の一つとして、日韓の稲作文化を世界に発信します。



プログラム（概要、予定）

8/2

- 田んぼの生きもの調査（ラインセンサス、ランダム調査、畦の草花調査）
- 日韓生産技術意見交換会
- 日韓生きもの調査意見交換会
- 日韓夕食交流会

8/3

- 「ゆうきの里農業者大会&生きもの調査シンポジウム」
- 記念講演「東アジアの水田農業と第10回ラムサール条約「水田決議」に向けて（仮） 呉地正行（日本ラムネット共同代表）」
- シンポジウム「日韓田んぼの生きもの調査と生物多様性農法の現状とこれから」